

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業431社を対象に実施し、392社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成19年7月～9月の実績、平成19年10月～12月の見込み、平成20年1月～3月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。□

調査時期：平成19年9月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	202□	185□	91.6%□
非 製 造 業	229□	207□	90.4%□
計	431	392	91.0%

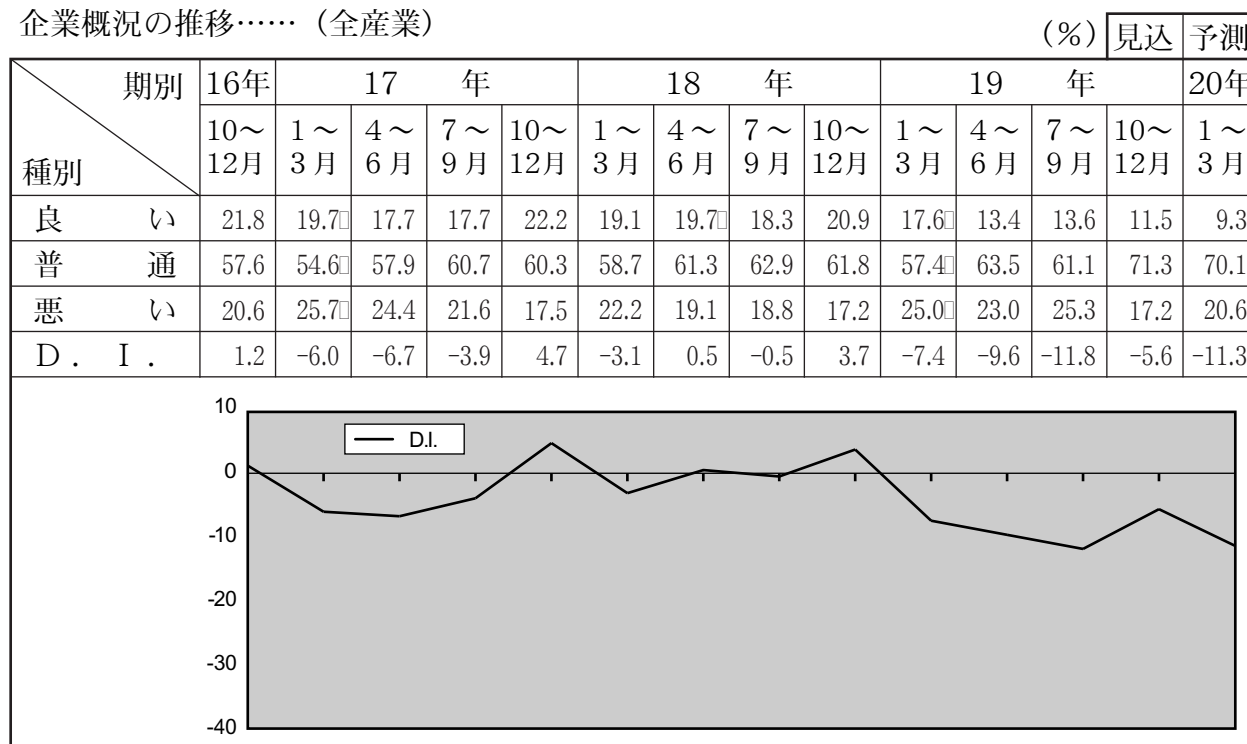
日銀が10月12日に公表した金融経済月報（基本的見解2007年10月）によると、現状の景気判断について、「わが国の景気は、穏やかに拡大している」とし、先行きについても「景気は穏やかな拡大を続けるとみられる。」としている。

18年7月より変わっていない。□

「輸出は、海外経済が全体として拡大するもとで、増加を続けていくとみられる。また、国内民間需要も、高水準の企業収益や雇用者所得の緩やかな増加を背景に、引き続き増加していく可能性が高い。こうした内外需要の増加を反映して、生産も増加基調をたどるとみられる。この間、公共投資は減少基調で推移すると考えられる。」として、景気は穏やかな拡大を続けるとしている。□

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

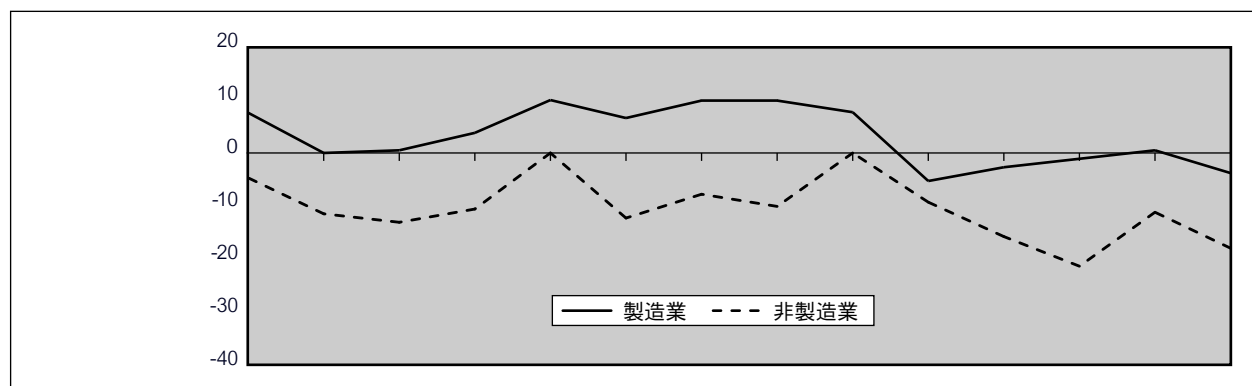


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		(%)													見込	予測
種別	期別	16年	17 年				18 年				19 年				20年	
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
良	い	25.4	22.6	22.3	21.5	25.3	23.9	25.7	24.5	22.4	18.1	16.7	20.0	14.7	11.1	
普	通	56.9	54.9	56.0	60.8	59.5	58.9	58.6	60.9	62.8	58.5	64.0	58.9	71.2	11.0	
悪	い	17.8	22.6	21.8	17.7	15.3	17.3	15.7	14.6	14.8	23.4	19.4	21.1	14.1	14.8	
D . I .		7.6	0.0	0.5	3.8	10.0	6.6	9.9	9.9	7.7	-5.3	-2.7	-1.1	0.5	-3.8	

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		(%)													見込	予測
種別	期別	16年	17 年				18 年				19 年				20年	
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
良	い	18.5	17.1	13.6	14.4	19.4	14.6	14.3	12.6	19.5	17.1	10.5	7.8	8.7	7.8	
普	通	58.3	54.4	59.6	60.6	61.1	58.5	63.6	64.7	61.0	56.5	63.2	63.1	71.4	66.5	
悪	い	23.2	28.6	26.8	25.0	19.4	26.9	22.1	22.7	19.5	26.4	26.3	29.1	19.9	25.7	
D . I .		-4.7	-11.5	-13.1	-10.6	0.0	-12.3	-7.8	-10.1	0.0	-9.3	-15.8	-21.4	-11.2	-18.0	



- こうした全国の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」は、19年7～9月期実績は▲11.8と前期比2.2ポイント悪化した。□
先行きについて、19年10～12月期のD.I.は、前期比6.2ポイント改善する見込となっているが、ポイントはマイナスであり、前年同期比に比べポイントも低い。□
- 業況判断指数D.I.の19年7～9月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より1.6ポイント改善となった。非製造業は前期より更に5.6ポイント悪化している。□
先行きについてのD.I.は全業種で、改善見込みであるが、非製造業については、まだマイナスポイントの見込みとなっている。□
製造業の業況判断指数D.I.は、先行きの19年10～12月期見込を0.5とプラスに改善される見込となっているが、20年1～3月期を▲3.8と悪化予想をしている。□
非製造業の業況判断指数D.I.については、19年10～12月期予想は▲11.2とマイナスであるが改善見込である。20年1～3月期は悪化予想となっている。

Ⅱ．売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月
増 加	36.3	35.8	35.9	36.4	35.4	35.0	35.0	33.8	36.0	31.6	28.5	26.0	20.9	16.6
横 ば い	38.0	38.9	40.0	40.6	40.5	40.9	44.3	44.4	42.1	40.7	41.7	42.2	58.0	63.7
減 少	25.7	25.3	24.1	23.1	24.1	24.1	20.8	21.8	21.9	27.7	29.8	31.8	21.1	19.7
D . I .	10.6	10.5	11.8	13.3	11.2	10.9	14.2	11.9	14.1	3.9	-1.2	-5.9	-0.3	-3.1

売上高状況（うち製造業のみ）

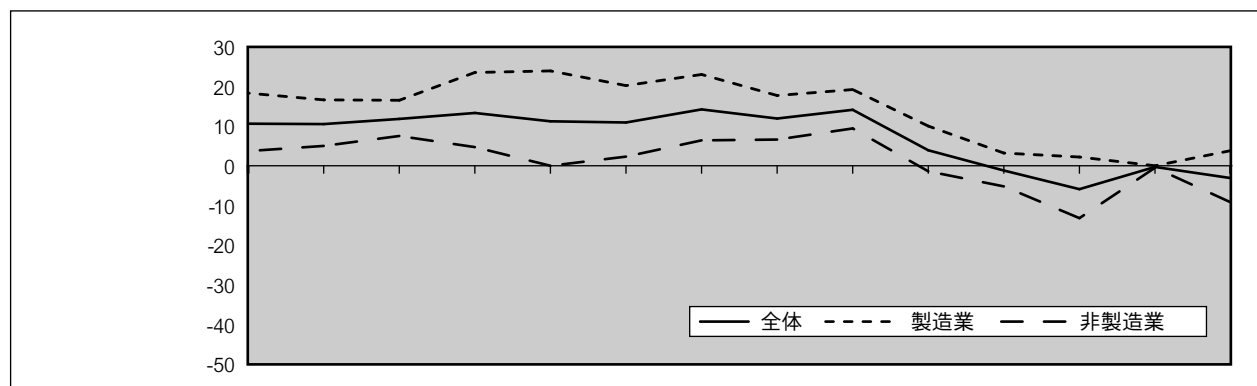
(%) 見込 予測

期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月
増 加	41.3	40.9	41.2	43.8	43.1	41.4	39.2	38.0	39.9	34.7	31.6	31.0	21.7	19.8
横 ば い	35.7	34.7	34.0	35.8	37.8	37.4	44.5	41.7	39.4	40.5	40.0	40.2	56.5	64.3
減 少	23.0	24.4	24.7	20.3	19.1	21.2	16.2	20.3	20.7	24.8	28.5	28.8	21.7	15.9
D . I .	18.3	16.6	16.5	23.5	23.9	20.2	23.0	17.7	19.2	10.0	3.2	2.2	0.0	3.8

売上高状況（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月
増 加	31.8	31.2	31.0	30.2	28.5	29.1	31.2	29.8	32.4	28.9	25.8	21.4	20.1	13.7
横 ば い	40.1	42.7	45.5	44.2	43.0	44.1	44.0	46.9	44.6	40.8	43.2	43.9	59.3	63.2
減 少	28.1	26.1	23.5	25.6	28.5	26.8	24.8	23.2	23.0	30.3	31.0	34.6	20.5	23.0
D . I .	3.7	5.0	7.5	4.7	0.0	2.3	6.4	6.6	9.4	-1.4	-5.2	-13.2	-0.5	-9.3



- 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。全産業の売上高状況D.I.は、19年4～6月期からマイナスとなり、7～9月期は前期比悪化し▲5.9となった。前期調査時には改善予想であったが、売上減少した先が増加し悪化となった。
- 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けてみると、製造業はプラスで推移しているが、19年からは低下傾向となり7～9月実績では2.2となり、10～12月見込は0.0を予想している。非製造業も18年全期間でプラスの水準が続いていたが、19年1～3月期からD.I.はマイナスとなり、7～9月期は前期比8ポイント低下の▲13.2となった。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

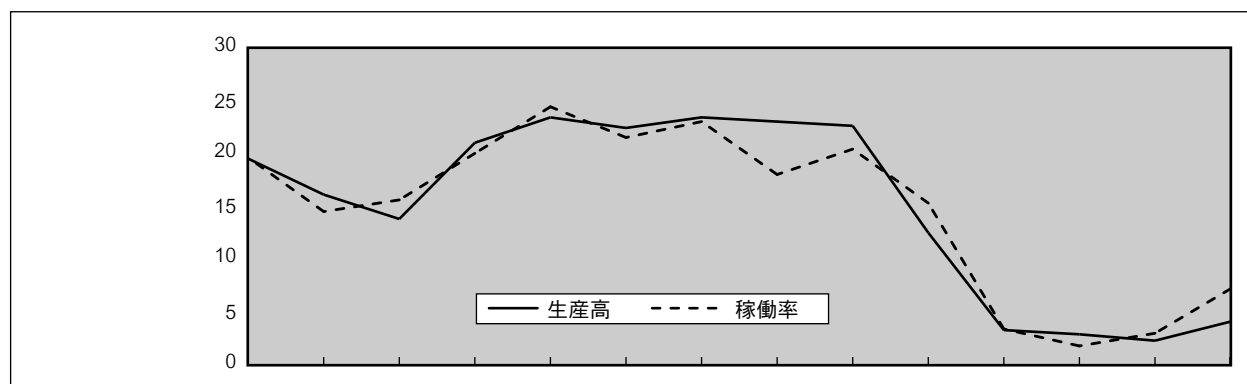
(%) 見込 予測

期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月
20%以上増加	10.8	9.7	8.5	9.9	12.5	11.7	7.6	10.7	8.4	6.5	4.4	8.1	4.0	3.5
20%未満増加	30.8	30.1	29.6	30.4	28.3	28.1	32.1	28.3	31.6	27.2	26.4	21.4	17.3	15.8
横ばい状況	36.4	36.6	37.6	40.3	41.8	42.9	44.0	44.9	42.6	45.1	41.8	43.9	59.5	65.5
20%未満減少	19.0	20.4	21.7	18.8	15.2	16.8	13.6	14.4	17.4	19.0	24.2	23.1	18.5	14.6
20%以上減少	3.1	3.2	2.6	0.6	2.2	0.5	2.7	1.6	0.0	2.2	3.3	3.5	0.6	0.6
D . I .	19.5	16.1	13.8	21.0	23.4	22.4	23.4	23.0	22.6	12.5	3.3	2.9	2.3	4.1

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月
上 昇	11.9	10.6	9.4	11.7	13.3	12.0	8.2	9.3	5.9	5.1	5.6	5.9	2.4	2.4
やや上 昇	25.3	26.8	27.1	23.9	25.6	27.2	28.4	25.1	31.2	28.2	20.8	18.9	17.9	18.1
横 ば い	45.4	39.7	42.7	48.9	46.7	42.9	49.7	49.2	46.2	48.6	50.6	52.1	62.5	66.3
やや下 降	14.4	20.1	17.7	13.3	13.9	15.2	11.5	15.8	16.7	16.9	20.8	18.3	14.9	11.4
下 降	3.1	2.8	3.1	2.2	0.6	2.6	2.2	0.5	0.0	1.1	2.2	4.7	2.4	1.8
D . I .	19.6	14.5	15.6	20.0	24.4	21.5	23.0	18.0	20.4	15.3	3.4	1.8	3.0	7.2



- (1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.「増加－減少」は、上記調査期間全てプラスであるが、19年1～3月期からのD.I.は20を割り込み悪化してきている。□

20%未満減少とするポイントが増加してきている。

- (2) 一方の稼働率状況D.I.からも、18年全期間で稼働率が上昇状況であったが、生産高同様に19年4～9月期は上昇幅はやや落ち着き、横ばいとする企業が増加している。□

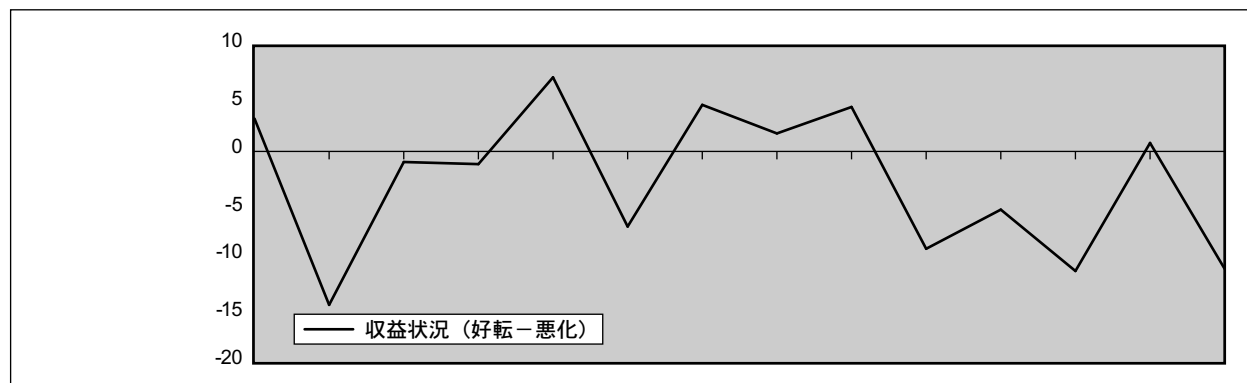
製造業の生産高・稼働率の先行き予測は横ばいとする先が増加している。□

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月
好 転	22.4	17.7	19.7	21.0	23.5	18.6	23.8	18.4	23.2	19.2	16.6	12.4	18.6	11.7
横 ば い	58.3	50.1	59.6	56.8	60.0	55.6	56.9	64.9	57.7	52.5	61.3	63.9	63.7	65.5
悪 化	19.3	32.2	20.7	22.2	16.5	25.7	19.1	16.7	19.1	28.4	22.1	23.7	17.8	22.8
D . I .	3.1	-14.5	-1.0	-1.2	7.0	-7.1	4.4	1.7	4.2	-9.2	-5.5	-11.3	0.8	-11.1



好転理由

(%) 見込 予測

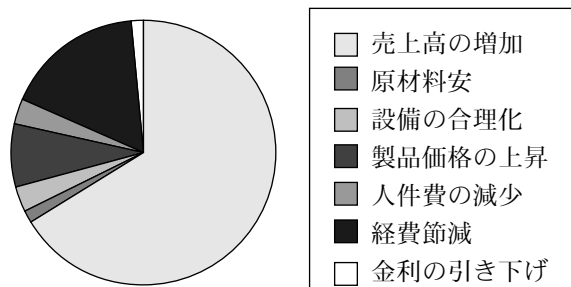
期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月
売上高の増加	75.7	74.4	69.7	65.5	69.1	56.3	64.6	61.9	61.5	69.4	61.4	66.2	61.2	56.3
原 材 料 安	1.7	2.3	5.1	2.6	2.7	7.1	2.4	6.2	4.9	3.1	1.1	1.5	1.0	1.6
設備の合理化	2.6	4.7	0.0	2.6	1.8	2.7	2.4	4.1	2.5	4.1	4.5	3.1	2.0	4.7
製品価格の上昇	4.3	5.8	8.1	7.8	4.5	12.5	9.4	9.3	10.7	6.1	6.8	7.7	9.2	10.9
人件費の減少	4.3	3.5	2.0	6.9	5.5	1.8	2.4	6.2	5.7	6.1	3.4	3.1	3.1	6.3
経 費 節 減	11.3	9.3	15.2	14.7	16.4	16.1	17.3	12.4	14.8	11.2	21.6	16.9	22.4	18.8
金利の引き下げ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.6	0.0	0.0	0.0	1.1	1.5	1.0	1.6

悪化理由

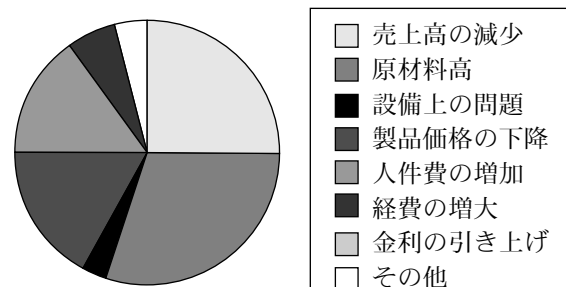
(%) 見込 予測

期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月
売上高の減少	57.7	60.0	49.6	48.4	41.8	57.5	38.9	35.4	40.7	55.7	47.2	17.6	43.4	51.9
原 材 料 高	18.3	21.1	19.8	19.8	20.4	19.4	24.1	28.1	20.3	18.4	25.0	21.0	24.5	21.1
設備上の問題	0.0	0.6	1.7	3.2	0.0	0.7	2.8	1.0	2.5	0.0	1.4	2.1	0.9	0.8
製品価格の下降	14.4	7.4	9.1	8.7	7.1	6.7	7.4	10.4	8.5	5.1	6.9	11.9	10.4	9.0
経 費 の 増 大	4.8	7.4	10.7	9.5	11.2	2.2	5.6	15.6	10.2	7.0	10.4	10.5	9.4	8.3
人件費の増加	1.9	1.7	5.8	5.6	8.2	9.7	12.0	4.2	8.5	6.3	2.8	4.2	4.7	4.5
金利の引き上げ	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	1.7	2.5	2.8	0.0	1.9	3.0
そ の 他	2.9	1.8	2.5	4.8	11.2	3.0	9.3	4.2	7.6	5.1	3.5	2.8	4.7	1.5

好転理由



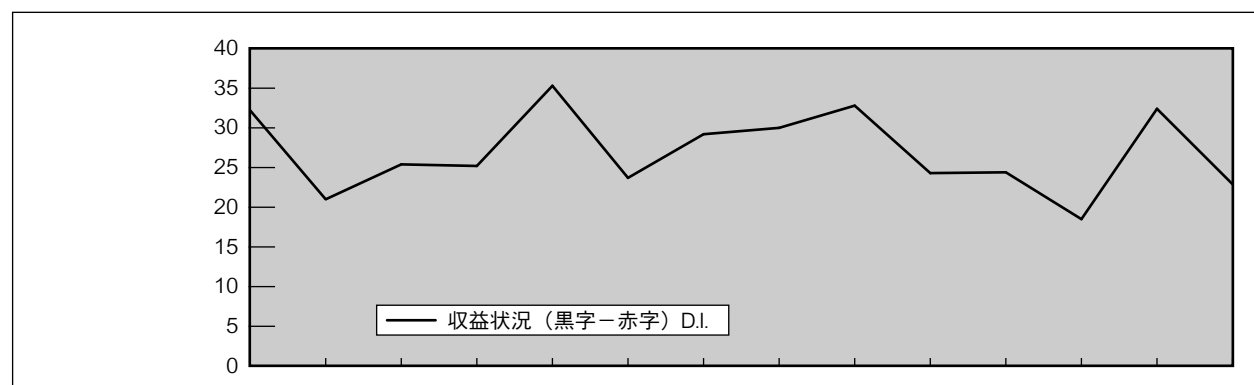
悪化理由



- (1) 7～9月期収益状況「好転－悪化」D.I.は、▲11.3と前期比5.8ポイント悪化した。先行きについては、19年10～12月期D.I.は0.8と19年7～9月期実績より12.1ポイントの好転を見込んでいる。しかし20年1～3期予測では悪化となっている。□
- (2) 「収益状況が好転した」理由、7～9月期実績は、①売上高の増加、②経費節減となっている。順位は前回と変わっていないが、売上の増加ポイントが増加している。先行きでも、「売上高の増加」が大幅な理由となっており、「経費節減」も依然高い理由となっている。
- (3) 「収益状況が悪化した」理由、7～9月期実績は、①原材料高、②売上高の減少となっている。売上高の減少とするポイントが大幅に低下し、原材料高とするポイントが増加している。先行きについても、原材料高を悪化の理由とする企業が増加している。10～12月期は更に3.5ポイント増加している。原油高騰が起因する、素材高・燃料費の増加が感じられる。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	期別	(%)													見込	予測
		16年	17 年				18 年				19 年				20年	
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
黒字		48.2	43.3	44.8	44.1	48.5	44.4	43.8	44.6	48.5	43.5	43.0	38.3	42.4	37.1	
収支トントン		35.8	34.5	35.7	37.0	38.3	34.9	41.6	40.8	35.7	37.3	38.4	41.9	47.6	48.7	
償却後赤字		16.0	22.2	19.5	18.9	13.2	20.7	14.6	14.6	15.8	19.3	18.6	19.8	10.0	14.2	
D . I .		32.2	21.0	25.4	25.2	35.3	23.7	29.2	30.0	32.8	24.3	24.4	18.5	32.4	22.9	



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、18年4～6月期以降改善してきていたが、19年1～3月期より低下してきている。19年7～9月期は18.5と最低ポイントとなった。例年1～3月期は悪化しているが、今回調査では、更に悪化の状況となった。19年7～9月期実績では80.2%の企業が黒字もしくは収支トントンと回答している。先行きでは、90%以上の企業が黒字もしくは収支トントンと回答しており、ポイントも増加している。□

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

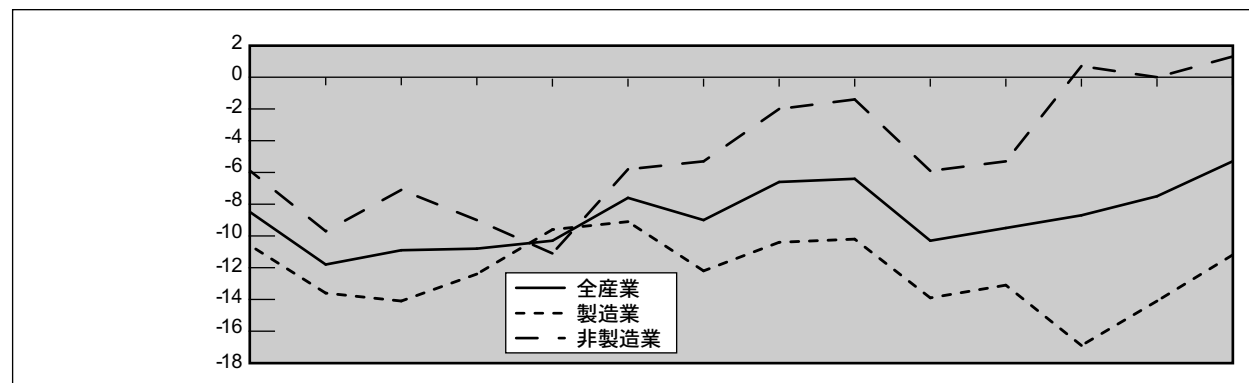
		(%)													見込	予測
期別 種別	16年	17 年					18 年				19 年				20年	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月		
不 足	3.5	2.7	4.7	3.6	3.3	3.2	3.6	3.9	3.6	2.4	2.8	4.4	3.7	3.1		
適 正	84.5	82.8	79.7	81.9	83.0	86.0	83.8	85.5	86.4	84.9	84.9	82.6	85.0	88.4		
過 剰	12.0	14.5	15.6	14.5	13.6	10.8	12.6	10.6	10.0	12.7	12.3	13.1	11.2	8.4		
D . I .	-8.5	-11.8	-10.9	-10.8	-10.3	-7.6	-9.0	-6.6	-6.4	-10.3	-9.5	-8.7	-7.5	-5.3		

製品在庫水準（うち製造業のみ）

		(%)													見込	予測
期別 種別	16年	17 年					18 年				19 年				20年	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月		
不 足	2.6	2.7	3.2	4.0	4.5	4.3	3.9	3.3	3.7	1.1	2.3	2.3	2.9	1.8		
適 正	84.1	81.0	79.5	79.7	81.4	82.3	80.1	83.0	82.4	83.9	82.3	78.5	80.0	85.3		
過 剰	13.2	16.3	17.3	16.4	14.1	13.4	16.0	13.7	13.9	15.0	15.4	19.2	17.1	12.9		
D . I .	-10.6	-13.6	-14.1	-12.4	-9.6	-9.1	-12.2	-10.4	-10.2	-13.9	-13.1	-16.9	-14.1	-11.2		

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

		(%)													見込	予測
期別 種別	16年	17 年					18 年				19 年				20年	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月		
不 足	4.6	2.6	6.5	3.2	2.0	1.9	3.3	4.7	3.5	4.0	3.3	6.7	4.6	4.7		
適 正	84.9	85.1	80.0	84.5	85.0	90.4	88.2	88.6	91.6	86.1	88.0	87.2	90.7	92.0		
過 剰	10.5	12.3	13.5	12.3	13.1	7.7	8.6	6.7	4.9	9.9	8.7	6.0	4.6	3.3		
D . I .	-5.9	-9.7	-7.1	-9.0	-11.1	-5.8	-5.3	-2.0	-1.4	-5.9	-5.3	0.7	0.0	1.3		



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、19年7～9月期は▲8.7となった。18年に入り製品在庫の過剰感は改善し、全期間を通して17年より改善していたが19年1～3月期では後退していた。その後は徐々に改善されている。非製造業については、7～9月期ではD.I.はプラスとなり、過剰より不足のポイントが高くなっている。
- (2) 19年7～9月期、業種別では、前期と同じ木材業・出版印刷紙加工に在庫の過剰感が見られる。高岡銅器において在庫過剰感が改善されてきているが、電子部品製造、プラスチックに悪化がみられる。機械工具販売では、前期より在庫不足となっている。

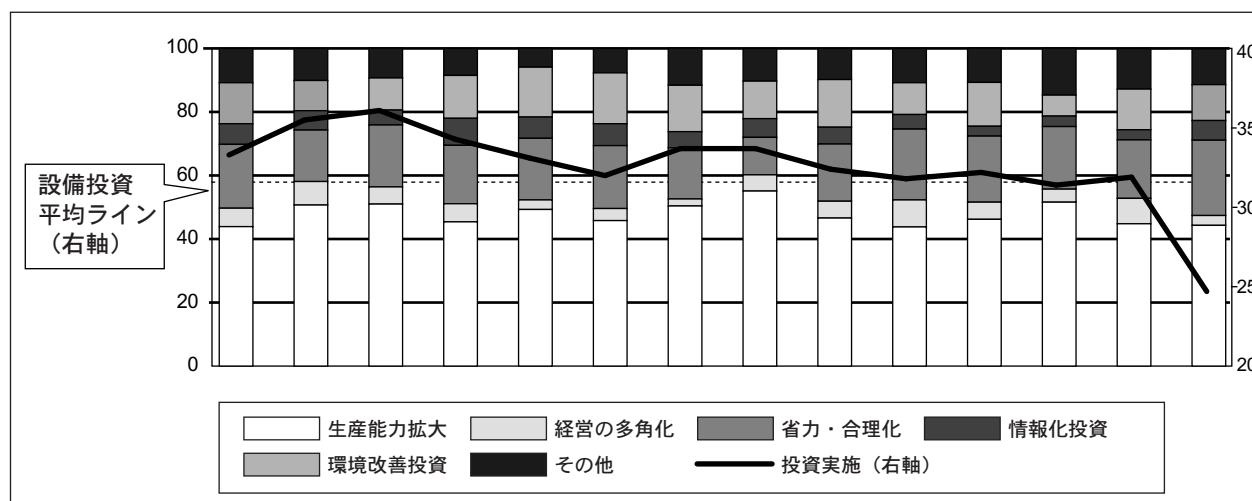
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	(%)														見込	予測
	16年	17 年					18 年				19 年				20年	
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月		
投資実施	33.3	35.5	36.1	34.3	33.1	32.0	33.7	33.7	32.4	31.8	32.2	31.4	31.9	24.7		
投資せず	66.7	64.5	63.9	65.7	66.9	68.0	66.3	66.3	67.6	68.2	67.8	68.6	68.1	75.3		

設備投資の目的（実施先について）

設備投資の目的（実施先について）														(%)
生産能力拡大	43.9	50.7	51.0	45.4	49.3	45.8	50.4	55.1	46.6	43.8	46.2	51.6	44.8	44.3
経営の多角化	5.8	7.4	5.4	5.7	3.0	3.8	2.2	5.1	5.3	8.5	5.4	4.1	8.0	3.1
省力・合理化	20.1	16.2	19.5	18.4	19.4	19.8	16.1	11.8	18.0	22.3	20.8	19.7	18.4	23.7
情報化投資	6.5	6.1	4.7	8.5	6.7	6.9	5.1	5.9	5.3	4.6	3.1	3.3	3.2	6.2
環境改善投資	12.9	9.5	10.1	13.5	15.7	16.0	14.6	11.8	15.0	10.0	13.8	6.6	12.8	11.3
その他	10.8	10.1	9.4	8.5	6.0	7.7	11.7	10.3	9.8	10.8	10.8	14.8	12.8	11.3



- (1) 19年7～9月に設備投資を実施した企業は全産業の31.1%であり、17期連続で30%を上回った。19年7～9月期実績を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は40.5%、非製造業は22.7%となっている。

19年7～9月期に設備投資を実施した企業の投資目的は、生産・販売能力拡大が前期比5.4ポイント増の51.6%となり前期と同じくトップ、次に省力・合理化が19.7%であった。

- (2) 19年10～12月期に設備投資を予定している企業は全体の31.9%で、引続き30%以上の企業が設備投資を予定している。

設備投資の目的は今期と同じ、生産能力の拡大がトップとなっている。

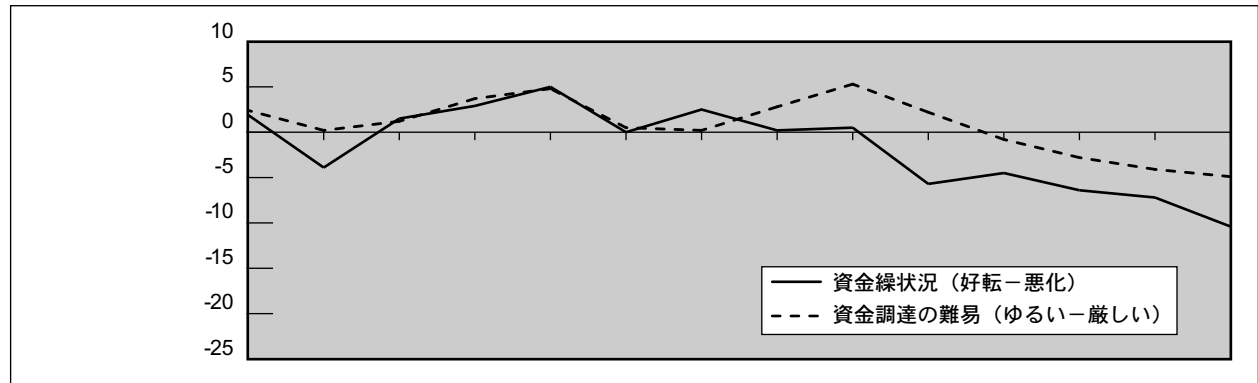
- (3) 19年7～9月期において設備投資実施企業の割合が50%を超えたのは、医薬品製造・電子部品製造・プラスチックであった。また、10～12月期見込でも、電子部品製造の50%以上が設備投資を見込んでいる。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月
好 転	11.1	8.7	9.2	10.3	11.7	11.0	10.8	9.2	11.0	8.1	6.8	5.9	5.7	4.4
変 わ ら ず	79.8	78.7	83.0	82.4	81.6	77.9	80.9	81.9	78.4	78.1	82.0	81.7	81.4	80.8
悪 化	9.2	12.6	7.8	7.3	6.7	11.0	8.3	8.9	10.5	13.8	11.3	12.4	12.9	14.8
D . I .	1.9	-3.9	1.5	2.9	5.0	0.0	2.5	0.2	0.5	-5.7	-4.5	-6.4	-7.2	-10.4



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

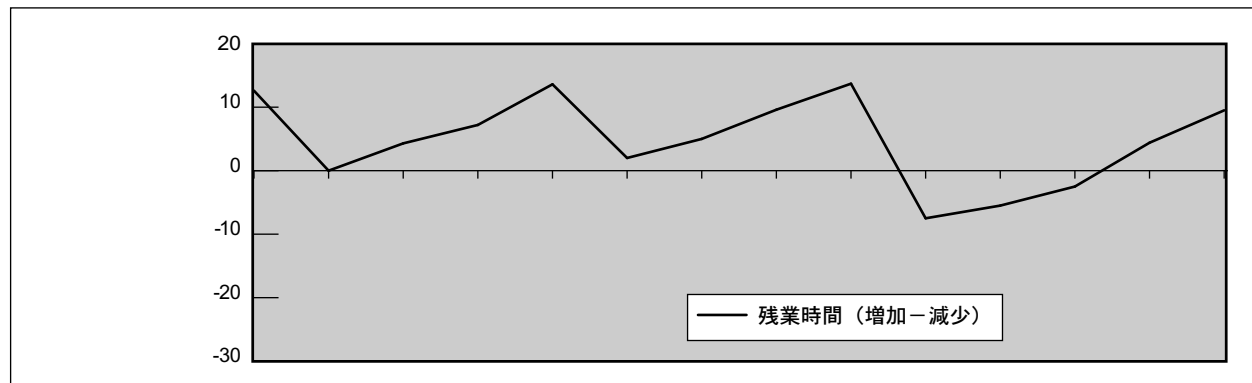
期別 種別	16年	17 年				18 年				19 年				20年
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月
ゆ る い	13.7	12.2	13.1	14.4	14.1	12.2	11.5	13.2	13.8	13.6	11.6	10.6	9.8	10.4
厳しくない	75.1	75.4	75.1	74.9	76.6	75.1	77.3	76.3	77.8	75.0	76.1	76.0	76.2	74.4
厳 し い	11.2	12.4	11.8	10.7	9.3	12.7	11.2	10.4	8.5	11.4	12.3	13.4	14.0	15.3
D . I .	2.4	-0.2	1.2	3.7	4.8	-0.5	0.2	2.8	5.3	2.2	-0.8	-2.8	-4.1	-4.9

- 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は18年はプラスであったが、19年1～3月期からはマイナスとなり、悪化がうかがわれる。7～9月期は▲6.4と前期やや改善したが、再び悪化しており、先行きが懸念される調査結果となった。
- また、資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」においても、19年7～9月期▲2.8と前期比2.0ポイント悪化しマイナスとなった。先行きについても、悪化を予測している。
多くの企業が資金調達に厳しさを感じていない一方で、資金調達に厳しさを感じている企業が10%超と増加してきている。
業種では、前回調査と同じく今回の調査でも宿泊業が最も高く、次に土木業となっている。

VIII. 労務事情

残業時間

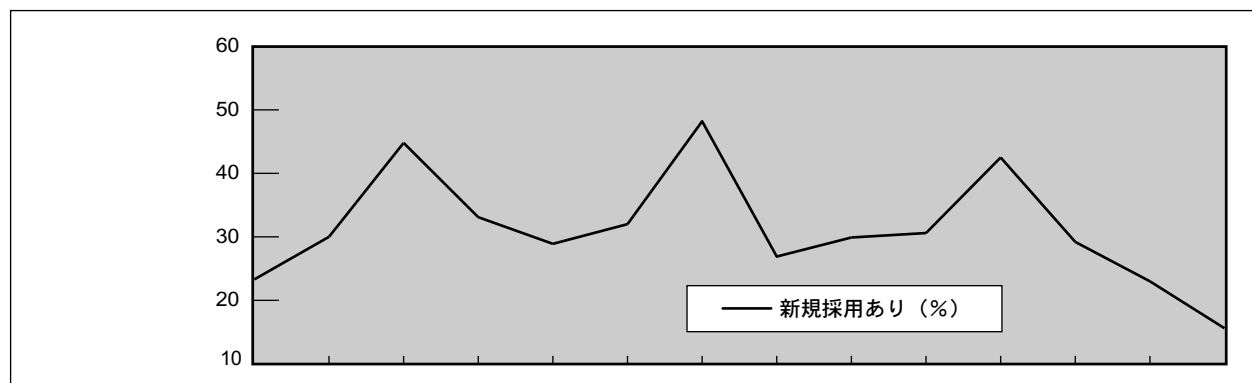
		(%)													見込	予測
種別	期別	16年	17 年				18 年				19 年				20年	
		10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	
増	加	25.4	20.2	19.6	19.1	24.6	19.5	19.4	17.2	22.5	15.6	14.0	15.1	19.6	10.5	
横	ばい	61.7	59.7	65.0	69.1	64.3	63.1	66.2	75.3	68.7	61.3	66.6	67.2	65.2	69.5	
減	少	12.8	20.2	15.3	11.8	11.0	17.4	14.4	7.5	8.8	23.1	19.5	17.7	15.2	20.0	
D . I .		12.6	0.0	4.3	7.2	13.6	2.0	5.0	9.6	13.7	-7.5	-5.5	-2.5	4.4	9.5	



- (1) 残業時間（増加－減少）D.I.19年1～3月期から、マイナスポイントとなり残業時間は減少している。しかし、マイナスポイントは低下してきており、残業時間は増加傾向にある。

新規採用実績(採用あり：％) ※常用・臨時合算

		(%)													見込	予測
種別	期別	16年	17 年				18 年				19 年				20年	
		10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	
全産業		23.3	30.0	44.8	33.1	28.9	32.0	48.2	26.9	29.9	30.6	42.5	29.2	23.0	15.6	
(うち製造業)		25.6	29.7	48.2	32.5	29.3	35.5	44.5	25.9	29.9	28.1	41.6	25.4	22.9	14.8	
(うち非製造業)		21.1	30.1	41.7	33.6	28.5	28.7	51.5	27.8	30.0	32.7	43.3	32.5	23.1	16.3	

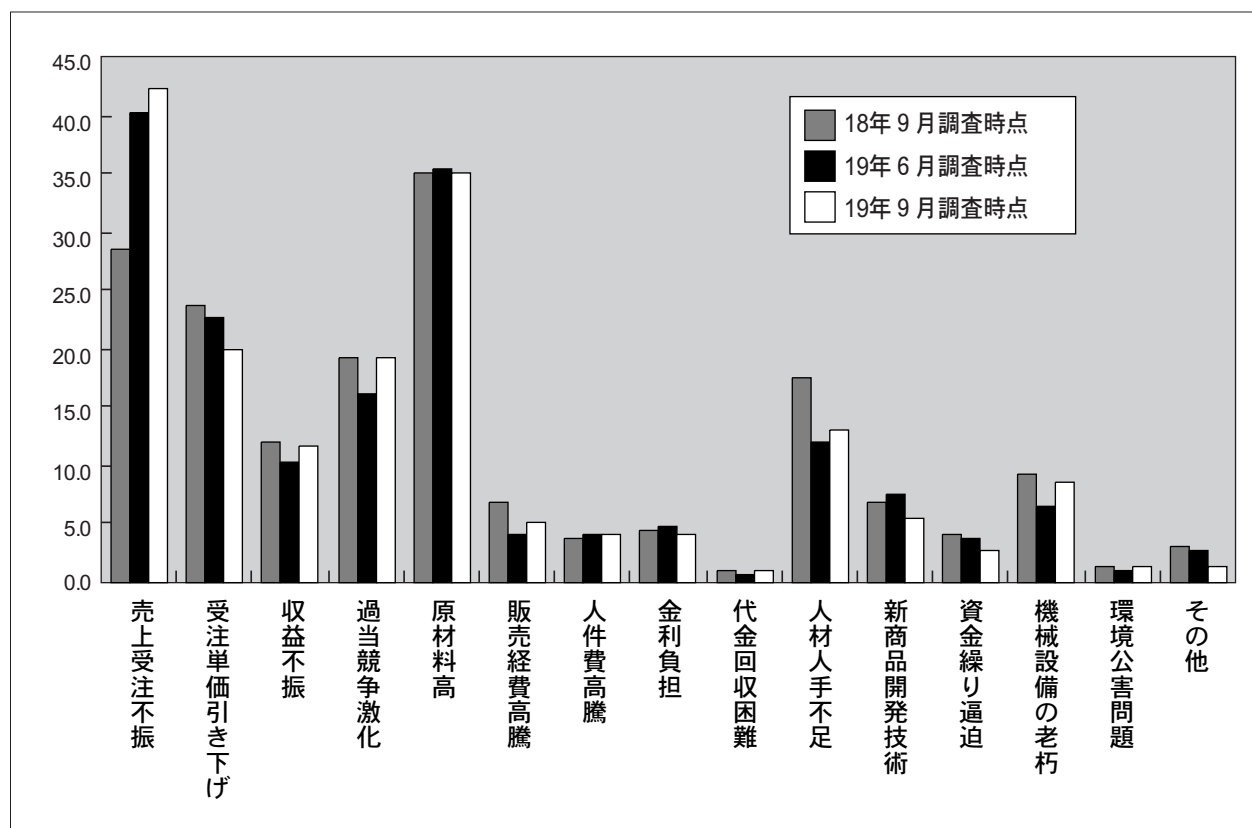


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業について7～9月期に29.2%の企業が採用を行っている。前年同期より2.3ポイント上昇している。

IX. 当面の経営上の問題点

□ (%:複数回答あり)

	18年 9 月 (前年)	19年 6 月 (前回)	19年 9 月 (今回)			前回比増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売 上 受 注 不 振	28.5	40.1	42.3	(35.1)	(48.8)	2.2
受注単価引き下げ	23.6	22.8	19.9	(21.1)	(18.8)	-2.9
収 益 不 振	11.9	10.4	11.7	(9.2)	(14.0)	1.3
過 当 競 争 激 化	19.1	16.1	19.4	(10.8)	(27.1)	3.3
原 材 料 高	35.2	35.4	35.2	(47.6)	(24.2)	-0.2
販 売 経 費 高 騰	6.7	4.2	5.1	(2.7)	(7.2)	0.9
人 件 費 高 騰	3.7	4.2	4.1	(3.2)	(4.8)	-0.1
金 利 負 担	4.5	4.7	4.1	(4.3)	(3.9)	-0.6
代 金 回 収 困 難	1.2	0.7	1.0	(0.0)	(1.9)	0.3
人 材 人 手 不 足	17.4	11.9	13.0	(12.4)	(13.5)	1.1
新 商 品 開 発 技 術	6.9	7.4	5.6	(9.2)	(2.4)	-1.8
資 金 繰 り 逼 迫	4.2	3.7	2.6	(1.6)	(3.4)	-1.1
機 械 設 備 の 老 朽	9.2	6.4	8.7	(10.3)	(7.2)	2.3
環 境 公 害 問 題	1.5	1.2	1.3	(1.6)	(1.0)	0.1
そ の 他	3.2	2.7	1.5	(1.6)	(1.4)	-1.2



- (1) 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振42.3%(前期比+2.2ポイント)、②原材料高35.2%(前期比▲0.2ポイント)、③受注単価引き下げ19.9%(前期比▲2.9ポイント)の順となっている。
- (2) これを製造業と非製造業に分けてみると前回アンケート同様、製造業では原材料高47.6%(前期比▲3.2ポイント)、非製造業では売上受注不振48.8%(前期比5.6ポイント)が高いポイントとなっている。
- (3) 今回調査でも売上受注不振、原材料高が依然高いポイントとなっている。製造業では原材料高が47.6%と前回と同じく半数近い企業が問題点としてあげた。また、非製造業では売上受注不振が5.6ポイント増加し48.8%となっている。